

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	福井工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	機械工学科				19	19	7	
	電気電子工学科				12	12	7	
	電子情報工学科				19	19	7	
	物質工学科				18	18	7	
	環境都市工学科				16	16	7	
	生産システム工学専攻			12	8	20	7	
	環境システム工学専攻				6	18	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=19&lang=ja

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	福井工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/02_%E4%BA%BA%E4%BA%8B/kisoku/yakuin-20220401.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	2016年4月1日～ 2024年3月31日	理事長
常勤	豊橋技術科学大学 理事・副学長	2020年4月1日～ 2024年3月31日	国際交流・海外展開 情報システム
非常勤	東京大学教授	2022年4月1日～ 2024年3月31日	男女共同参画
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	福井工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業計画(シラバス)の作成過程 <ul style="list-style-type: none"> 学科毎のカリキュラム・ポリシー及びそれに基づく教育課程表を踏まえ、授業計画(シラバス)を作成・公表している。 ・ 授業計画書の作成・公表時期 <ul style="list-style-type: none"> ① 担当部署より授業担当教員に対し、次年度開講予定の授業科目のシラバス作成を依頼する(12月中旬頃)。 ② 授業担当教員は、国立高専統一のWebシラバス入力システム(画面入力)により、シラバスを作成する(～3月上旬)。 ③ Webシラバス入力システムにて作成されたシラバスを、創造教育開発センター教員等が内容の点検を行い、必要があれば授業担当教員に修正を依頼する。(～3月下旬) ④ 国立高等専門学校機構の開設するホームページにて、全高専分のシラバスが公表される。(4月1日) なお、本校ホームページ経由でもアクセス可能。 																			
授業計画書の公表方法	https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=19&lang=ja																		
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p> <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>シラバスにおいて、あらかじめ設定し公表している評価割合(成績評価方法・基準)により、厳格かつ適正に評価された成績を認定会議に諮り、承認を得た後、単位認定を行っている。なお、授業科目の履修成績に対する異議申立ての手続き等について、全校的なガイドラインを設け、学生に不利益とならぬよう配慮している。</p>																			
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>これまで本校では履修科目の平均点により成績の序列を付していたが、公平性等を鑑み、検討を行い、令和元年度よりGPAによる成績で序列を付すこととした。</p> <p>なお、GPAの算出方法は「福井工業高等専門学校学業成績の評価並びに進級及び卒業の認定に関する規則」及び「福井工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則」により、次のとおりである。</p> <p>【本科】</p> <p>1 学業成績は、次の区分により評定する。また、各評定に対し、GP(Grade Point)を定める。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>評定</td> <td>秀</td> <td>優</td> <td>良</td> <td>可</td> <td>不可</td> </tr> <tr> <td>評点</td> <td>100点～90点</td> <td>89点～80点</td> <td>79点～70点</td> <td>69点～60点</td> <td>59点以下</td> </tr> <tr> <td>GP</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> </table> <p>ただし、特別活動、プロジェクト演習、卒業研究にはGPは定めない。</p>		評定	秀	優	良	可	不可	評点	100点～90点	89点～80点	79点～70点	69点～60点	59点以下	GP	4	3	2	1	0
評定	秀	優	良	可	不可														
評点	100点～90点	89点～80点	79点～70点	69点～60点	59点以下														
GP	4	3	2	1	0														

- 2 GPA (Grade Point Average) に、学期 GPA と累積 GPA を定め、次の式によって算出する。それぞれ小数第3位を四捨五入し小数第2位まで求める。ただし、GPA が定められていない科目は除く。

$$\text{学期 GPA} = \frac{\text{(履修科目の前期または学年末時点の GP} \times \text{当該科目の単位数) の総和}}{\text{前期に成績評価された履修科目、または当該学年の履修科目の総単位数}}$$

$$\text{累積 GPA} = \frac{\text{(在学期間の合格科目の GP} \times \text{当該科目の単位数) の総和}}{\text{在学期間の必修科目及び履修届を提出した選択科目の総単位数}}$$

不合格科目が合格認定された場合には、累積 GPA の算出においてのみ合格科目として取り扱う。

ただし、原級留置となった場合、当該学年の科目は、合格した選択科目を除き、累積 GPA の算出に含めない。

- 3 各学年または学期で成績による序列が必要な場合は、学期 GPA の値が高い者を上位として序列をつける。ただし、学期 GPA の値が等しい場合は評定の高い科目が多い者を上位とし、なおも等しい場合には履修選択科目数が多い者を上位とする。

【専攻科】

- 1 成績は、次の区分によって秀、優、良、可、不可と評定する。また、各評定区分に対応した GP (Grade Point) を次表のように定める。

評定	秀	優	良	可	不可
評点	100点～90点	89点～80点	79点～70点	69点～60点	59点以下
GP	4	3	2	1	0

ただし、特別研究Ⅰ、特別研究Ⅱ、インターンシップ、海外インターンシップについて、GP は定めない。

- 2 GPA (Grade Point Average) に、学期 GPA と累積 GPA を定め、次のように算出する。それぞれ小数第3位を四捨五入し小数第2位までを求める。ただし、GPA が定められていない科目は、算出から除く。

$$\text{学期 GPA} = \frac{\text{(当該学期の合格科目の GP} \times \text{合格科目の単位数) の総和}}{\text{当該学期の成績評価された履修科目の総単位数}}$$

$$\text{累積 GPA} = \frac{\text{(在学期間の合格科目の GP} \times \text{合格科目の単位数) の総和}}{\text{在学期間の履修科目の総単位数}}$$

不合格科目を再履修し、合格の評価であった場合及び再履修の結果再び不合格の評価であった場合、「在学期間の履修科目の総単位数」に、それぞれ再履修前の不合格科目に関しては算入しない。

- 3 学期で成績による序列が必要な場合は、学期 GPA の値が高い者を上位として序列をつける。学年で成績による序列が必要な場合は、累積 GPA の値の高い者を上位として序列をつける。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<https://www.fukui-net.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2022/05/honka-seiseki2022.pdf>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

以下のディプロマ・ポリシーに沿って、厳格かつ適正に評価された成績を卒業・修了の各認定会議に諮り、承認を得た後、卒業・修了認定を行っている。

【本科】

福井高専は、「優れた実践力と豊かな人間性、創造性を備え、社会の多様な発展に寄与できる技術者を育成する」ために、次に掲げる人材を養成することを目的としています。

- 一、地球環境に配慮できる社会的責任感と倫理観を持った技術者（人間性）
- 一、科学技術の進歩を的確に見通す工学的素養を持った技術者（専門性）
- 一、調和と協調を意識して、国際的に活躍できる技術者（国際性）
- 一、幅広い知識を応用・統合し、豊かな発想力と実践力で問題解決できる技術者（創造性）

この目的を達成するために、卒業時点において学生が身に付けるべき能力（学習教育目標）を下記のように定めています。これら能力の獲得と本校各学科の教育課程に規定する所定単位（独立行政法人国立高等専門学校機構の「モデルコアカリキュラム」に基づいた各学科の教育課程表を参照してください。）の修得をもって、人材像の達成とみなし、福井高専の卒業を認定し、準学士（工学）と称することを認めます。

- RA 多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。
- RB 数学とその他の自然科学、及び専門分野におけるものづくり、環境づくりに関する基礎能力を身に付ける。
- RC 国際社会で活躍するためのコミュニケーション基礎能力を身に付ける。
- RD 技術者に必要なデザインマインドを身に付ける。
- RE 実践的能力と論理的思考能力を身に付ける。

機械工学科

機械工学科では、次の内容を教育目標として加えています。ものづくりのための基礎的知識や技術を身に付けた創造性豊かな機械技術者となるために、機械技術者として必要な基礎学力、技術革新・高度情報化社会に対応できる能力、実践的能力および論理的思考能力を身に付ける。

電気電子工学科

電気電子工学科では、次の内容を教育目標として加えています。ものづくりのための基礎的知識や技術を身に付けた創造性豊かな電気電子技術者となるために、電気電子技術者に必要な専門的かつ総合的な基礎力、幅広い専門分野に適応できる応用力、独創力およびコミュニケーション能力を身に付ける。

電子情報工学科

電子情報工学科では、次の内容を教育目標として加えています。情報化社会の基盤となるハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク及びコンピュータ制御技術で、種々の問題を解決できる有能な技術者となるために、電気電子工学及び情報工学の技術者として必要な基礎的な学力と能力、変化するIT社会に対応できる応用力、実験実習や卒業研究をとおした実践的能力や創造能力、及びコミュニケーション能力を身に付ける。

物質工学科

物質工学科では、次の内容を教育目標として掲げています。論理的思考能力を備えた実践的で創造性豊かな化学技術者となるために、それらの必要な知識と技術に加えて、材料工学または生物工学の分野における専門的能力を身に付ける。

環境都市工学科

環境都市工学科では、次の内容を教育目標として加えています。社会資本を持続可能にする土木技術者と建築技術者となるために、それらの技術者に必要な基礎的な学力

と能力、幅広い専門分野の理論に関する応用力、実験実習や卒業研究を通じた実践力と創造力を身に付ける。

学際領域科目群

多様化する現代社会に通用する技術者となるために、本校全専門学科の教育課程の中に学際領域科目群を設け、次の内容を教育目標としています。自分の専門分野の幅を広げ融合複合型の考え方を持った技術者となるため、他の工学分野の基礎的な学力と能力を身に付ける。さらに、自ら問題を発見し、問題解決のアイデアを提案することで、創造性、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力等の分野横断的な能力の基礎を身に付ける。

【専攻科】

専攻科ディプロマ・ポリシー

福井高専専攻科は、福井高専の教育理念に基づき「得意とする専門分野を持つことに加え、関連する他の技術分野の知識と能力を積極的に吸収し、自然環境との調和を図りながら持続可能な社会を有機的にデザインすることのできる知識と能力を身に付けた、国際社会で活躍できる実践的技術者」を福井高専専攻科の目指すエンジニア像に掲げ、各専攻において次に掲げる人材を育成することを目的としています。

専攻科生産システム工学専攻は、高等専門学校等で習得した基礎学力の基盤の上に、機械・設計関連、システム制御関連、電子・物性関連および情報・通信関連分野の知識を広く学び、これらを有機的に統合した生産システムの設計並びに開発研究等を行うことのできる創造力を持った実践的技術者となるような人材を育成することを目的としています。

専攻科環境システム工学専攻は、高等専門学校等で習得した基礎学力の基盤の上に、構造・材料関連、生物・化学関連、環境・分析関連および防災・都市システム関連分野の知識を広く学び、これらを有機的に統合した環境システムの設計並びに開発研究等を行うことのできる創造力を持った実践的技術者となるような人材を育成することを目的としています。

これらの目的を達成するために、本校専攻科では、専攻科修了時点において学生が身につけるべき能力（学習教育目標）を下記のように定めています。これらの能力の獲得と学則の定める所定の授業科目等を履修し、基準となる単位取得をもって本校専攻科の目指すエンジニア像の達成と見なし、本校専攻科を修了した者が、大学改革支援・学位授与機構の審査に合格することによって学位が授与されます。

JA 地球的視点から多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。

JB 数学とその他の自然科学、情報処理、および異なる技術分野を含む問題にも対処できる、ものづくり・環境づくりに関する能力を身に付ける。

JC 国際社会で活躍する技術者に必要なコミュニケーション基礎能力を身に付ける。

JD 技術者に求められる基礎的なデザイン能力を身に付ける。

JE 実践的能力および論理的思考能力を総合的に身に付ける。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	福井工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoR2.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoR2.pdf
財産目録	
事業報告書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/R2jigyohoukoku.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/kansaR2.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:令和4年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/01_%E7%B7%8F%E5%8B%99/r4-keikaku.pdf
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:平成31年(2019年)4月1日から令和6年(2024年)3月31日まで)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/chuukikeikaku-4th.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.fukui-nct.ac.jp/information/document-3/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.fukui-nct.ac.jp/information/certification-evaluation/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 機械工学科
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.fukui-nct.ac.jp/information/disclosure/ https://www.fukui-nct.ac.jp/information/idea/)
(概要) 学 則 第 1 条 本校は、教育基本法、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。 2 本校は、その目的を実現するための教育を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。 3 本校は、教育研究の成果の普及及び活用の促進に資するため、その教育研究活動の状況を公表するものとする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/)
(概要) ディプロマ・ポリシー 【本 科】 福井高専は、「優れた実践力と豊かな人間性、創造性を備え、社会の多様な発展に寄与できる技術者を育成する」ために、次に掲げる人材を養成することを目的としています。 一、地球環境に配慮できる社会的責任感と倫理観を持った技術者（人間性） 一、科学技術の進歩を的確に見通す工学的素養を持った技術者（専門性） 一、調和と協調を意識して、国際的に活躍できる技術者（国際性） 一、幅広い知識を応用・統合し、豊かな発想力と実践力で問題解決できる技術者（創造性） この目的を達成するために、卒業時点において学生が身に付けるべき能力（学習教育目標）を下記のように定めています。これら能力の獲得と本校各学科の教育課程に規定する所定単位（独立行政法人国立高等専門学校機構の「モデルコアカリキュラム」に基づいた各学科の教育課程表を参照してください。）の修得をもって、人材像の達成とみなし、福井高専の卒業を認定し、準学士（工学）と称することを認めます。 RA 多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。 RB 数学とその他の自然科学、及び専門分野におけるものづくり、環境づくりに関する基礎能力を身に付ける。 RC 国際社会で活躍するためのコミュニケーション基礎能力を身に付ける。 RD 技術者に必要なデザインマインドを身に付ける。 RE 実践的能力と論理的思考能力を身に付ける。 機械工学科 機械工学科では、次の内容を教育目標として加えています。ものづくりのための基礎的知識や技術を身に付けた創造性豊かな機械技術者となるために、機械技術者として必要な基礎学力、技術革新・高度情報化社会に対応できる能力、実践的能力および論理的思考能力を身に付ける。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/>)

(概要)

カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに掲げる人材を育成するために、福井高専では、独立行政法人国立高等専門学校機構の定めた「モデルコアカリキュラム」を各学科において適正に配置し、「ものづくり」と「環境づくり」ができる技術者として、生涯にわたって自己研鑽ができる学習能力を身に付けた卒業生を社会に輩出するために、本校の教育理念で求める人材の育成を行います。

【教育課程編成の考え方】

学年進行とともに専門科目が多くなる「くさび形」カリキュラムであり、人間性と専門性を養成するために、専門科目と一般科目を連携させて科目を配置する。

- ① 創造性を引き出し、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養成するための演習科目及び実験科目を多く配置する。
- ② 多様化する現代社会に対応できる技術者となるために、他学科の科目も履修可能な学際領域科目群を3学年から配置する。
- ③ 国際的な視点をもった技術者となるために、コミュニケーション基礎能力を養成するための科目を配置する。
- ④ 実践的能力と論理的思考能力を養成するための総合的な科目を最終学年に配置する。

【学際領域科目群について】

学際領域科目群は、環境・エネルギー群、情報・制御群、材料科学群の3群からなり、学生は、これら3群から1群を選択し、自分の専門分野の幅を広げることができます。具体的には、以下の方針のもとに各群の教育課程を編成し、教育を実践しています。

- ① 融合複合された各群専門分野の基礎能力を育成するために、学際領域科目群に分野横断型科目を選択科目として配置する。
- ② 創造性、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、チームワーク力等、分野横断的な能力の基礎を育成するために、PBL型・学科横断型グループ学習の科目を必修科目として配置する。

【評価方法】

各学科の教育課程における各科目の単位認定は、定期試験、レポート、口頭発表等、多様な方法を用いて評価します。合否基準は60点と設定しており、合格した者には所定の単位が与えられます。

機械工学科

機械工学科では、上記の方針に則り、ものづくりのための基礎的知識や技術を身に付けた創造性豊かな機械技術者を養成するために、具体的には以下を教育方針として教育課程を編成し、教育を実践しています。

- ① 1学年では、機械工学の導入レベルの能力を育成するために、力学、情報処理およびものづくりに関する科目を配置する。
- ② 2,3学年では、機械工学の基礎的な能力を育成するために、工作法、材料学、材料力学、流体力学および情報・制御などに関する科目を配置する。
- ③ 4,5学年では、機械工学の応用的な能力を育成するために、材料力学、熱・流体力学、機械システム、計測制御および機械系情報処理などに関する科目を配置する。
- ④ 1～5学年を通して、デザインマインド、実践的能力、論理的思考力、コミュニケーション能力を育成するために、設計製図、工作実習および機械工学実験などの科目を配置する。さらに、問題解決能力・プレゼンテーション能力を育成するために、5学年に卒業研究を配置する。

一般科目教室自然科学系

一般科目教室自然科学系では、幅広い教養と専門科目に必要となる数学、理科（物理、化学、生物）の基礎的な知識、技能の修得に加え、生涯にわたって活力あふれる生活を営める人材を育成します。具体的には以下を教育方針に基づいて教育課程を編成し、教育を実践しています。

低学年（1～2年）

数学科では、数学の基礎的な知識と計算技能を身に付け、数学的論理を通して思考力、表現力を育成するために、解析および代数分野の基礎的な科目を配置する。

物理科では、力学、波動、電気現象を抽象的に記述できる能力を育成するために、物理基礎、物理の科目を配置する。化学科では、自然や生活環境における化学の基本的な概念や原理・法則を理解できる能力を、生物科では、生命科学の基本概念を理解できる能力を育成するための科目を配置する。

保健体育科では、種々のスポーツを各自の体力やスキルに応じて実施できる能力を育成するための科目を配置する。

高学年（3～5年）

数学科では、現象を数学的にとらえ、問題を解決する能力を育成するために、解析および代数分野の応用的な科目と確率統計の基礎的な科目を配置する。

物理科では、物理現象への理解をさらに深め、工学への応用力を育成するために、応用物理の科目を配置する。

保健体育科では、自己の体力を的確にとらえ、生涯にわたって主体的に運動を継続するための能力と、健康管理の一環として生活習慣病の予防について理解できる能力を育成するための科目を配置する。

一般科目教室人文社会科学系

一般科目教室人文社会科学系では、豊かな教養とコミュニケーション能力を身に付けた人材を育成します。具体的には以下を教育方針として教育課程を編成し、教育を実践しています。

低学年（1～2年）

国語科では、小説・随筆といった、日常的ないし過去の時代から受け継がれている言語作品に触れ、その読解および鑑賞に習熟し、さらにその題材の選び方や技法を自らの表現法として会得できる能力を育成するための、国語の分野に関する基礎的な科目を配置する。社会科では、社会の地域的特色と歴史的背景を理解し、人間の在り方や生き方について把握する能力を育成するために、歴史や倫理などを学ぶ科目を配置する。英語科では、4技能の調和に基づく実践的なコミュニケーションの基礎能力を育成するための科目を配置する。

高学年（3～5年）

国語科では、すぐれた現代文を読み味わうとともに、手紙から意見文に至る実用的かつ社会とつながる文章の作法や読解法を習得するといった、国語分野に関する実践的な科目を配置する。さらに、意欲に応じて日本語学・国文学の所産とその方法論に触れ、学術的な見識を高めるための科目や、これまで学んできた基礎を応用した文章作成能力、口頭能力を育成するための科目を配置する。社会科では、現代の政治や経済、国際関係などを理解し、社会の変化の本質を批判的に認識できる能力を育成するために、政治や法、経済などを学ぶ科目を配置する。英語科では、より深い読解能力、聴解能力の養成を中心に、総合的なコミュニケーション能力を育成するための科目を配置する。

<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法： https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/)</p>
<p>(概要) アドミッション・ポリシー 求める学生像（本科共通） 福井高専では、基礎学力が備わっていて、本校が目指すものづくり及び環境づくりに関する学習に興味があり、技術者としてグローバルな視野を持って産業の発展に貢献したいという気持ちを強く持ち、そのために新しい目標に向かっていつもチャレンジをし、仲間と共同して課題を考え解決する能力を身に付けようと積極的に行動できる人を求めます。</p> <p>機械工学科 機械工学科では、さらに次のような人を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自動車、飛行機、ロボットなどの機械システムや、環境、福祉、宇宙工学などの分野に興味がある人 2. サイエンスを学び、ものづくりに創造性を発揮して、人間社会に貢献したい人 3. 機械を創る材料、動かすエネルギー、制御する情報など幅広い技術を身に付けたい人

<p>学部等名 電気電子工学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法： https://www.fukui-nct.ac.jp/information/disclosure/ https://www.fukui-nct.ac.jp/information/idea/)</p>
<p>(概要) 学 則 第1条 本校は、教育基本法、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。 2 本校は、その目的を実現するための教育を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。 3 本校は、教育研究の成果の普及及び活用の促進に資するため、その教育研究活動の状況を公表するものとする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/)</p>
<p>(概要) ディプロマ・ポリシー 【本 科】 福井高専は、「優れた実践力と豊かな人間性、創造性を備え、社会の多様な発展に寄与できる技術者を育成する」ために、次に掲げる人材を養成することを目的としています。 一、地球環境に配慮できる社会的責任感と倫理観を持った技術者（人間性） 一、科学技術の進歩を的確に見通す工学的素養を持った技術者（専門性） 一、調和と協調を意識して、国際的に活躍できる技術者（国際性） 一、幅広い知識を応用・統合し、豊かな発想力と実践力で問題解決できる技術者（創造性） この目的を達成するために、卒業時点において学生が身につけるべき能力（学習教育目標）を下記のように定めています。これら能力の獲得と 本校各学科のカリキュラムに規定する所定単位（各学科のカリキュラム表を参照してください。）の修得をもって、人材像の達成とみなし、福井高専の卒業を認定し、準学士（工学）と称することを認めます。 RA 多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。 RB 数学とその他の自然科学、及び専門分野におけるものづくり、環境づくりに関する基礎能力を身に付ける。 RC 国際社会で活躍するためのコミュニケーション基礎能力を身に付ける。</p>

RD 技術者に必要なデザインマインドを身に付ける。

RE 実践的能力と論理的思考能力を身に付ける。

電気電子工学科

電気電子工学科では、次の内容を教育目標として加えています。ものづくりのための基礎的知識や技術を身に付けた創造性豊かな電気電子技術者となるために、電気電子技術者に必要な専門的かつ総合的な基礎力、幅広い専門分野に適応できる応用力、独創力およびコミュニケーション能力を身に付ける。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/>)

(概要)

カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに掲げる人材を育成するために、福井高専では、独立行政法人国立高等専門学校機構の定めた「モデルコアカリキュラム」を各学科において適正に配置し、「ものづくり」と「環境づくり」ができる技術者として、生涯にわたって自己研鑽ができる学習能力を身に付けた卒業生を社会に輩出するために、本校の教育理念で求める人材の育成を行います。

【教育課程編成の考え方】

学年進行とともに専門科目が多くなる「くさび形」カリキュラムであり、人間性と専門性を養成するために、専門科目と一般科目を連携させて科目を配置する。

- ④ 創造性を引き出し、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養成するための演習科目及び実験科目を多く配置する。
- ⑤ 多様化する現代社会に対応できる技術者となるために、他学科の科目も履修可能な学際領域科目群を3学年から配置する。
- ⑥ 国際的な視点をもった技術者となるために、コミュニケーション基礎能力を養成するための科目を配置する。
- ④ 実践的能力と論理的思考能力を養成するための総合的な科目を最終学年に配置する。

【学際領域科目群について】

学際領域科目群は、環境・エネルギー群、情報・制御群、材料科学群の3群からなり、学生は、これら3群から1群を選択し、自分の専門分野の幅を広げることができます。具体的には、以下の方針のもとに各群の教育課程を編成し、教育を実践しています。

- ① 融合複合された各群専門分野の基礎能力を育成するために、学際領域科目群に分野横断型科目を選択科目として配置する。
- ② 創造性、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、チームワーク力等、分野横断的な能力の基礎を育成するために、PBL型・学科横断型グループ学習の科目を必修科目として配置する。

【評価方法】

各学科の教育課程における各科目の単位認定は、定期試験、レポート、口頭発表等、多様な方法を用いて評価します。合否基準は60点と設定しており、合格した者には所定の単位が与えられます。

電気電子工学科

電気電子工学科では、上記の方針に則り、ものづくりのための基礎的知識や技術を身に付けた創造性豊かな電気電子技術者を養成するために、具体的には以下を教育方針として教育課程を編成し、教育を実践しています。

- ① 1学年では、電気電子工学の導入レベルの能力を育成するために、電気基礎、情報処理、ものづくりの科目を配置する。

- ② 2,3 学年では、電気電子工学の基礎的な能力を育成するために、電気回路、電気磁気学、電子回路、情報処理などに関する科目を配置する。
- ③ 4,5 学年では、電気電子工学の応用的な能力を育成するために、電気回路、電気磁気学、電気機器、発変電工学、情報処理システムなどに関する科目を配置する。
- ④ 1～5 学年を通して、実践的能力、論理的思考力、コミュニケーション能力を育成するために、電気電子工学実験などの科目を配置する。さらに、問題解決能力・プレゼンテーション能力を育成するために、5 学年に卒業研究を配置する。

一般科目教室自然科学系

一般科目教室自然科学系では、幅広い教養と専門科目に必要となる数学、理科（物理、化学、生物）の基礎的な知識、技能の修得に加え、生涯にわたって活力あふれる生活を営める人材を育成します。具体的には以下を教育方針に基づいて教育課程を編成し、教育を実践しています。

低学年（1～2年）

数学科では、数学の基礎的な知識と計算技能を身に付け、数学的論理を通して思考力、表現力を育成するために、解析および代数分野の基礎的な科目を配置する。

物理科では、力学、波動、電気現象を抽象的に記述できる能力を育成するために、物理基礎、物理の科目を配置する。化学科では、自然や生活環境における化学の基本的な概念や原理・法則を理解できる能力を、生物科では、生命科学の基本概念を理解できる能力を育成するための科目を配置する。

保健体育科では、種々のスポーツを各自の体力やスキルに応じて実施できる能力を育成するための科目を配置する。

高学年（3～5年）

数学科では、現象を数学的にとらえ、問題を解決する能力を育成するために、解析および代数分野の応用的な科目と確率統計の基礎的な科目を配置する。

物理科では、物理現象への理解をさらに深め、工学への応用力を育成するために、応用物理の科目を配置する。

保健体育科では、自己の体力を的確にとらえ、生涯にわたって主体的に運動を継続するための能力と、健康管理の一環として生活習慣病の予防について理解できる能力を育成するための科目を配置する。

一般科目教室人文社会科学系

一般科目教室人文社会科学系では、豊かな教養とコミュニケーション能力を身に付けた人材を育成します。具体的には以下を教育方針として教育課程を編成し、教育を実践しています。

低学年（1～2年）

国語科では、小説・随筆といった、日常的ないし過去の時代から受け継がれている言語作品に触れ、その読解および鑑賞に習熟し、さらにその題材の選び方や技法を自らの表現法として会得できる能力を育成するための、国語の分野に関する基礎的な科目を配置する。社会科では、社会の地域的特色と歴史的背景を理解し、人間の在り方や生き方について把握する能力を育成するために、歴史や倫理などを学ぶ科目を配置する。英語科では、4 技能の調和に基づく実践的なコミュニケーションの基礎能力を育成するための科目を配置する。

高学年（3～5年）

国語科では、すぐれた現代文を読み味わうとともに、手紙から意見文に至る実用的かつ社会とつながる文章の作法や読解法を習得するといった、国語分野に関する実践的な科目を配置する。さらに、意欲に応じて日本語学・国文学の所産とその方法論に

<p>触れ、学術的な見識を高めるための科目や、これまで学んできた基礎を応用した文章作成能力、口頭能力を育成するための科目を配置する。社会科では、現代の政治や経済、国際関係などを理解し、社会の変化の本質を批判的に認識できる能力を育成するために、政治や法、経済などを学ぶ科目を配置する。英語科では、より深い読解能力、聴解能力の養成を中心に、総合的なコミュニケーション能力を育成するための科目を配置する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/)</p>
<p>(概要) アドミッション・ポリシー 求める学生像（本科共通） 福井高专では、基礎学力が備わっていて、本校が目指すものづくり及び環境づくりに関する学習に興味があり、技術者としてグローバルな視野を持って産業の発展に貢献したいという気持ちを強く持ち、そのために新しい目標に向かっていつもチャレンジをし、仲間と共同して課題を考え解決する能力を身に付けようと積極的に行動できる人を求めます。</p> <p>電気電子工学科 電気電子工学科では、さらに次のような人を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 電気自動車や太陽光発電などに使われる環境にやさしいクリーンエネルギーや新素材技術を学びたい人 2. ロボット、システム、コンピュータなどを動かすための電子制御やプログラミング技術を学びたい人 3. 情報家電や光通信などに使用する電子回路や情報通信技術を学びたい人

<p>学部等名 電子情報工学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.fukui-nct.ac.jp/information/disclosure/ https://www.fukui-nct.ac.jp/information/idea/)</p>
<p>(概要) 学 則 第1条 本校は、教育基本法、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。 2 本校は、その目的を実現するための教育を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。 3 本校は、教育研究の成果の普及及び活用の促進に資するため、その教育研究活動の状況を公表するものとする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/)</p>
<p>(概要) ディプロマ・ポリシー 【本 科】 福井高专は、「優れた実践力と豊かな人間性、創造性を備え、社会の多様な発展に寄与できる技術者を育成する」ために、次に掲げる人材を養成することを目的としています。 一、地球環境に配慮できる社会的責任感と倫理観を持った技術者（人間性） 一、科学技術の進歩を的確に見通す工学的素養を持った技術者（専門性） 一、調和と協調を意識して、国際的に活躍できる技術者（国際性） 一、幅広い知識を応用・統合し、豊かな発想力と実践力で問題解決できる技術者（創造性） この目的を達成するために、卒業時点 において学生が身につけるべき能力（学習教育</p>

目標)を下記のように定めています。これら能力の獲得と 本校各学科のカリキュラムに規定する所定単位(各学科のカリキュラム表を参照してください。)の修得をもって、人材像の達成とみなし、福井高専の卒業を認定し、準学士(工学)と称することを認めます。

RA 多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。

RB 数学とその他の自然科学、及び専門分野におけるものづくり、環境づくりに関する基礎能力を身に付ける。

RC 国際社会で活躍するためのコミュニケーション基礎能力を身に付ける。

RD 技術者に必要なデザインマインドを身に付ける。

RE 実践的能力と論理的思考能力を身に付ける。

電子情報工学科

情報化社会の基盤となるハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク及びコンピュータ制御技術で、種々の問題を解決できる有能な技術者となるために、電気電子工学及び情報工学の技術者として必要な基礎的な学力と能力、変化する IT 社会に対応できる応用力、実験実習や卒業研究をとおした実践的能力や創造能力、及びコミュニケーション能力を身に付ける。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/>)

(概要)

カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに掲げる人材を育成するために、福井高専では、独立行政法人国立高等専門学校機構の定めた「モデルコアカリキュラム」を各学科において適正に配置し、「ものづくり」と「環境づくり」ができる技術者として、生涯にわたって自己研鑽ができる学習能力を身に付けた卒業生を社会に輩出するために、本校の教育理念で求める人材の育成を行います。

【教育課程編成の考え方】

学年進行とともに専門科目が多くなる「くさび形」カリキュラムであり、人間性と専門性を養成するために、専門科目と一般科目を連携させて科目を配置する。

- ① 創造性を引き出し、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養成するための演習科目及び実験科目を多く配置する。
- ② 多様化する現代社会に対応できる技術者となるために、他学科の科目も履修可能な学際領域科目群を3学年から配置する。
- ③ 国際的な視点をもった技術者となるために、コミュニケーション基礎能力を養成するための科目を配置する。
- ④ 実践的能力と論理的思考能力を養成するための総合的な科目を最終学年に配置する。

【学際領域科目群について】

学際領域科目群は、環境・エネルギー群、情報・制御群、材料科学群の3群からなり、学生は、これら3群から1群を選択し、自分の専門分野の幅を広げることができます。具体的には、以下の方針のもとに各群の教育課程を編成し、教育を実践しています。

- ① 融合複合された各群専門分野の基礎能力を育成するために、学際領域科目群に分野横断型科目を選択科目として配置する。
- ② 創造性、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、チームワーク力等、分野横断的な能力の基礎を育成するために、PBL型・学科横断型グループ学習の科目を必修科目として配置する。

【評価方法】

各学科の教育課程における各科目の単位認定は、定期試験、レポート、口頭発表等、

多様な方法を用いて評価します。合否基準は60点と設定しており、合格した者には所定の単位が与えられます。

電子情報工学科

電子情報工学科では、上記の方針に則り、ものづくりのための基礎的知識や技術を身につけた創造性豊かな電子情報技術者を養成するために、具体的には以下を教育方針として教育課程を編成し、教育を実践しています。

- ① 1学年では、電気電子工学と情報工学の導入レベルの能力を育成するために、電気基礎、情報基礎、リテラシーおよびものづくりに関する科目を配置する。
- ② 2,3学年では、電気電子工学と情報工学の基礎的な能力を育成するために、電気電子回路やハードウェア、ソフトウェア、ネットワークに関する基礎的な科目を配置する。

一般科目教室自然科学系

一般科目教室自然科学系では、幅広い教養と専門科目に必要となる数学、理科（物理、化学、生物）の基礎的な知識、技能の修得に加え、生涯にわたって活力あふれる生活を営める人材を育成します。具体的には以下を教育方針に基づいて教育課程を編成し、教育を実践しています。

低学年（1～2年）

数学科では、数学の基礎的な知識と計算技能を身に付け、数学的論理を通して思考力、表現力を育成するために、解析および代数分野の基礎的な科目を配置する。

物理科では、力学、波動、電気現象を抽象的に記述できる能力を育成するために、物理基礎、物理の科目を配置する。化学科では、自然や生活環境における化学の基本的な概念や原理・法則を理解できる能力を、生物科では、生命科学の基本概念を理解できる能力を育成するための科目を配置する。

保健体育科では、種々のスポーツを各自の体力やスキルに応じて実施できる能力を育成するための科目を配置する。

高学年（3～5年）

数学科では、現象を数学的にとらえ、問題を解決する能力を育成するために、解析および代数分野の応用的な科目と確率統計の基礎的な科目を配置する。

物理科では、物理現象への理解をさらに深め、工学への応用力を育成するために、応用物理の科目を配置する。

保健体育科では、自己の体力を的確にとらえ、生涯にわたって主体的に運動を継続するための能力と、健康管理の一環として生活習慣病の予防について理解できる能力を育成するための科目を配置する。

一般科目教室人文社会科学系

一般科目教室人文社会科学系では、豊かな教養とコミュニケーション能力を身に付けた人材を育成します。具体的には以下を教育方針として教育課程を編成し、教育を実践しています。

低学年（1～2年）

国語科では、小説・随筆といった、日常的ないし過去の時代から受け継がれている言語作品に触れ、その読解および鑑賞に習熟し、さらにその題材の選び方や技法を自らの表現法として会得できる能力を育成するための、国語の分野に関する基礎的な科目を配置する。社会科では、社会の地域的特色と歴史的背景を理解し、人間の在り方や生き方について把握する能力を育成するために、歴史や倫理などを学ぶ科目を配置する。英語科では、4技能の調和に基づく実践的なコミュニケーションの基礎能力を育成するための科目を配置する。

高学年（3～5年）

国語科では、すぐれた現代文を読み味わうとともに、手紙から意見文に至る実用的かつ社会とつながる文章の作法や読解法を習得するといった、国語分野に関する実践的な科目を配置する。さらに、意欲に応じて日本語学・国文学の所産とその方法論に触れ、学術的な見識を高めるための科目や、これまで学んできた基礎を応用した文章作成能力、口頭能力を育成するための科目を配置する。社会科では、現代の政治や経済、国際関係などを理解し、社会の変化の本質を批判的に認識できる能力を育成するために、政治や法、経済などを学ぶ科目を配置する。英語科では、より深い読解能力、聴解能力の養成を中心に、総合的なコミュニケーション能力を育成するための科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/>)

(概要)

アドミッション・ポリシー

求める学生像（本科共通）

福井高専では、基礎学力が備わっていて、本校が目指すものづくり及び環境づくりに関する学習に興味があり、技術者としてグローバルな視野を持って産業の発展に貢献したいという気持ちを強く持ち、そのために新しい目標に向かっていつもチャレンジをし、仲間と共同して課題を考え解決する能力を身に付けようと積極的に行動できる人を求めます。

電子情報工学科

電子情報工学科では、さらに次のような人を求めています。

1. コンピュータの構造や仕組みに興味があり、高度なプログラミング技術を習得したい人
2. ネットワークを活用したり、AI ロボットを動かすプログラムを作りたい人
3. 最先端の ICT システム・サービスの開発をやってみたい人

学部等名 物質工学科

教育研究上の目的

(公表方法：<https://www.fukui-nct.ac.jp/information/disclosure/>
<https://www.fukui-nct.ac.jp/information/idea/>)

(概要)

学 則

- 第1条 本校は、教育基本法、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。
- 2 本校は、その目的を実現するための教育を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。
- 3 本校は、教育研究の成果の普及及び活用の促進に資するため、その教育研究活動の状況を公表するものとする。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：<https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/>)

(概要)

ディプロマ・ポリシー

【本 科】

福井高専は、「優れた実践力と豊かな人間性、創造性を備え、社会の多様な発展に寄与できる技術者を育成する」ために、次に掲げる人材を養成することを目的としています。

- 一、地球環境に配慮できる社会的責任感と倫理観を持った技術者（人間性）
- 一、科学技術の進歩を的確に見通す工学的素養を持った技術者（専門性）

- 一、調和と協調を意識して、国際的に活躍できる技術者（国際性）
 - 一、幅広い知識を応用・統合し、豊かな発想力と実践力で問題解決できる技術者（創造性）
- この目的を達成するために、卒業時点において学生が身につけるべき能力（学習教育目標）を下記のように定めています。これら能力の獲得と 本校各学科のカリキュラムに規定する所定単位（各学科のカリキュラム表を参照してください。）の修得をもって、人材像の達成とみなし、福井高専の卒業を認定し、準学士（工学）と称することを認めます。
- RA 多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。
 - RB 数学とその他の自然科学、及び専門分野におけるものづくり、環境づくりに関する基礎能力を身に付ける。
 - RC 国際社会で活躍するためのコミュニケーション基礎能力を身に付ける。
 - RD 技術者に必要なデザインマインドを身に付ける。
 - RE 実践的能力と論理的思考能力を身に付ける。

物質工学科

物質工学科では、次の内容を教育目標として掲げています。論理的思考能力を備えた実践的で創造性豊かな化学技術者となるために、必要な知識と技術に加えて、材料工学または生物工学の分野における専門的能力を身に付ける。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：<https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/>）

（概要）

カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに掲げる人材を育成するために、福井高専では、独立行政法人国立高等専門学校機構の定めた「モデルコアカリキュラム」を各学科において適正に配置し、「ものづくり」と「環境づくり」ができる技術者として、生涯にわたって自己研鑽ができる学習能力を身に付けた卒業生を社会に輩出するために、本校の教育理念で求める人材の育成を行います。

【教育課程編成の考え方】

学年進行とともに専門科目が多くなる「くさび形」カリキュラムであり、人間性と専門性を養成するために、専門科目と一般科目を連携させて科目を配置する。

- ① 創造性を引き出し、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養成するための演習科目及び実験科目を多く配置する。
- ② 多様化する現代社会に対応できる技術者となるために、他学科の科目も履修可能な学際領域科目群を3学年から配置する。
- ③ 国際的な視点をもった技術者となるために、コミュニケーション基礎能力を養成するための科目を配置する。
- ④ 実践的能力と論理的思考能力を養成するための総合的な科目を最終学年に配置する。

【学際領域科目群について】

学際領域科目群は、環境・エネルギー群、情報・制御群、材料科学群の3群からなり、学生は、これら3群から1群を選択し、自分の専門分野の幅を広げることができます。具体的には、以下の方針のもとに各群の教育課程を編成し、教育を実践しています。

- ① 融合複合された各群専門分野の基礎能力を育成するために、学際領域科目群に分野横断型科目を選択科目として配置する。
- ② 創造性、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、チームワーク力等、分野横断的な能力の基礎を育成するために、PBL型・学科横断型グループ学習の科目を必修科目として配置する。

【評価方法】

各学科の教育課程における各科目の単位認定は、定期試験、レポート、口頭発表等、多様な方法を用いて評価します。合否基準は60点と設定しており、合格した者には所定の単位が与えられます。

物質工学科

物質工学科では、上記の方針に則り、化学的視点から材料工学あるいは生物工学を学び、より良い社会を実現するために貢献できる化学技術者を養成します。具体的には以下を教育方針として教育課程を編成し、教育を実践しています。

- ① 1学年では、ものづくりや情報処理の導入レベルの能力を育成するために、専門基礎等に関する科目を配置する。
- ② 2,3学年では、物質工学の基礎的な能力を育成するために、無機化学、有機化学、物理化学、化学工学、分析化学、生化学、情報化学等に関する科目を配置する。
- ③ 4,5学年では、物質工学の専門性を深化させて材料工学あるいは生物工学の応用的な能力を育成するために、無機化学、有機化学、物理化学、分析化学、化学工学、生化学、情報化学等に関する科目に加え、材料工学コースでは材料に関する科目、生物工学コースでは生物に関する科目を配置する。
- ④ 1～5学年を通して、実践的能力、論理的思考力、コミュニケーション能力を育成するために、実験などの科目を配置する。さらに、問題解決能力・プレゼンテーション能力を育成するために、5学年に卒業研究を配置する。

一般科目教室自然科学系

一般科目教室自然科学系では、幅広い教養と専門科目に必要となる数学、理科（物理、化学、生物）の基礎的な知識、技能の修得に加え、生涯にわたって活力あふれる生活を営める人材を育成します。具体的には以下を教育方針に基づいて教育課程を編成し、教育を実践しています。

低学年（1～2年）

数学科では、数学の基礎的な知識と計算技能を身に付け、数学的論理を通して思考力、表現力を育成するために、解析および代数分野の基礎的な科目を配置する。

物理科では、力学、波動、電気現象を抽象的に記述できる能力を育成するために、物理基礎、物理の科目を配置する。化学科では、自然や生活環境における化学の基本的な概念や原理・法則を理解できる能力を、生物科では、生命科学の基本概念を理解できる能力を育成するための科目を配置する。

保健体育科では、種々のスポーツを各自の体力やスキルに応じて実施できる能力を育成するための科目を配置する。

高学年（3～5年）

数学科では、現象を数学的にとらえ、問題を解決する能力を育成するために、解析および代数分野の応用的な科目と確率統計の基礎的な科目を配置する。

物理科では、物理現象への理解をさらに深め、工学への応用力を育成するために、応用物理の科目を配置する。

保健体育科では、自己の体力を的確にとらえ、生涯にわたって主体的に運動を継続するための能力と、健康管理の一環として生活習慣病の予防について理解できる能力を育成するための科目を配置する。

一般科目教室人文社会科学系

一般科目教室人文社会科学系では、豊かな教養とコミュニケーション能力を身に付けた人材を育成します。具体的には以下を教育方針として教育課程を編成し、教育を実践しています。

低学年（1～2年）

国語科では、小説・随筆といった、日常的ないし過去の時代から受け継がれている言語作品に触れ、その読解および鑑賞に習熟し、さらにその題材の選び方や技法を自らの表現法として会得できる能力を育成するための、国語の分野に関する基礎的な科目を配置する。社会科では、社会の地域的特色と歴史的背景を理解し、人間の在り方や生き方について把握する能力を育成するために、歴史や倫理などを学ぶ科目を配置する。英語科では、4技能の調和に基づく実践的なコミュニケーションの基礎能力を育成するための科目を配置する。

高学年（3～5年）

国語科では、すぐれた現代文を読み味わうとともに、手紙から意見文に至る実用的かつ社会とつながる文章の作法や読解法を習得するといった、国語分野に関する実践的な科目を配置する。さらに、意欲に応じて日本語学・国文学の所産とその方法論に触れ、学術的な見識を高めるための科目や、これまで学んできた基礎を応用した文章作成能力、口頭能力を育成するための科目を配置する。社会科では、現代の政治や経済、国際関係などを理解し、社会の変化の本質を批判的に認識できる能力を育成するために、政治や法、経済などを学ぶ科目を配置する。英語科では、より深い読解能力、聴解能力の養成を中心に、総合的なコミュニケーション能力を育成するための科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/>）

（概要）

アドミッション ・ポリシー

求める学生像（本科共通）

福井高专では、基礎学力が備わっていて、本校が目指すものづくり及び環境づくりに関する学習に興味があり、技術者としてグローバルな視野を持って産業の発展に貢献したいという気持ちを強く持ち、そのために新しい目標に向かっていつもチャレンジをし、仲間と共同して課題を考え解決する能力を身に付けようと積極的に行動できる人を求めます。

物質工学科

物質工学科では、さらに次のような人を求めています。

1. 化学と生物の力により人々の健やかな生活に貢献したい人
2. 化学的手法を用いて有用物質や新しい材料を生み出すことに興味がある人
3. 微生物や遺伝子組換え技術等の生物機能を活用した物質生産や環境浄化に興味がある人

学部等名 環境都市工学科

教育研究上の目的

（公表方法：<https://www.fukui-nct.ac.jp/information/disclosure/>
<https://www.fukui-nct.ac.jp/information/idea/>）

（概要）

学 則

- 第1条 本校は、教育基本法、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。
- 2 本校は、その目的を実現するための教育を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。
- 3 本校は、教育研究の成果の普及及び活用の促進に資するため、その教育研究活動の状況を公表するものとする。

<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/)</p> <p>(概要) ディプロマ・ポリシー 【本科】 福井高専は、「優れた実践力と豊かな人間性、創造性を備え、社会の多様な発展に寄与できる技術者を育成する」ために、次に掲げる人材を養成することを目的としています。 一、地球環境に配慮できる社会的責任感と倫理観を持った技術者（人間性） 一、科学技術の進歩を的確に見通す工学的素養を持った技術者（専門性） 一、調和と協調を意識して、国際的に活躍できる技術者（国際性） 一、幅広い知識を応用・統合し、豊かな発想力と実践力で問題解決できる技術者（創造性） この目的を達成するために、卒業時点において学生が身につけるべき能力（学習教育目標）を下記のように定めています。これら能力の獲得と本校各学科のカリキュラムに規定する所定単位（各学科のカリキュラム表を参照してください。）の修得をもって、人材像の達成とみなし、福井高専の卒業を認定し、準学士（工学）と称することを認めます。 RA 多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。 RB 数学とその他の自然科学、及び専門分野におけるものづくり、環境づくりに関する基礎能力を身に付ける。 RC 国際社会で活躍するためのコミュニケーション基礎能力を身に付ける。 RD 技術者に必要なデザインマインドを身に付ける。 RE 実践的能力と論理的思考能力を身に付ける。</p> <p>環境都市工学科 環境都市工学科では、次の内容を教育目標として加えています。社会資本を持続可能にする土木技術者と建築技術者となるために、それらの技術者に必要な基礎的な学力と能力、幅広い専門分野の理論に関する応用力、実験実習や卒業研究を通じた実践力と創造力を身に付ける。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/)</p> <p>(概要) カリキュラム・ポリシー ディプロマ・ポリシーに掲げる人材を育成するために、福井高専では、独立行政法人国立高等専門学校機構の定めた「モデルコアカリキュラム」を各学科において適正に配置し、「ものづくり」と「環境づくり」ができる技術者として、生涯にわたって自己研鑽ができる学習能力を身に付けた卒業生を社会に輩出するために、本校の教育理念で求める人材の育成を行います。</p> <p>【教育課程編成の考え方】 学年進行とともに専門科目が多くなる「くさび形」カリキュラムであり、人間性と専門性を養成するために、専門科目と一般科目を連携させて科目を配置する。 ① 創造性を引き出し、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養成するための演習科目及び実験科目を多く配置する。 ② 多様化する現代社会に対応できる技術者となるために、他学科の科目も履修可能な学際領域科目群を3学年から配置する。 ③ 国際的な視点をもった技術者となるために、コミュニケーション基礎能力を養成するための科目を配置する。 ④ 実践的能力と論理的思考能力を養成するための総合的な科目を最終学年に配置する。</p> <p>【学際領域科目群について】</p>

学際領域科目群は、環境・エネルギー群、情報・制御群、材料科学群の3群からなり、学生は、これら3群から1群を選択し、自分の専門分野の幅を広げることができます。具体的には、以下の方針のもとに各群の教育課程を編成し、教育を実践しています。

- ① 融合複合された各群専門分野の基礎能力を育成するために、学際領域科目群に分野横断型科目を選択科目として配置する。
- ② 創造性、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、チームワーク力等、分野横断的な能力の基礎を育成するために、PBL型・学科横断型グループ学習の科目を必修科目として配置する。

【評価方法】

各学科の教育課程における各科目の単位認定は、定期試験、レポート、口頭発表等、多様な方法を用いて評価します。合否基準は60点と設定しており、合格した者には所定の単位が与えられます。

環境都市工学科

環境都市工学科では、上記の方針に則り、社会資本を持続可能にする土木技術者と建築技術者を養成するために、具体的には以下を教育方針として教育課程を編成し、教育を実践しています。

- ① 1学年では、環境都市工学の導入レベルの能力を育成するために、測量、情報処理、製図などの科目を配置する。
- ② 2,3学年では、環境都市工学の基礎的な能力を育成するために、構造・水・土の力学、計画、材料、衛生、測量、プログラミングなどに関する科目を配置する。
- ③ 4,5学年では、環境都市工学の応用的な能力を育成するために、鋼及びコンクリート構造、河川、交通、施工管理、法規、建築の環境・設備・計画、数値解析などに関する科目を配置する。
- ④ 1～5学年を通して、実践的能力、論理的思考力、コミュニケーション能力を育成するために、設計製図と実験実習などの科目を配置する。さらに、問題解決能力・プレゼンテーション能力を育成するために、5学年に卒業研究を配置する。

一般科目教室自然科学系

一般科目教室自然科学系では、幅広い教養と専門科目に必要となる数学、理科（物理、化学、生物）の基礎的な知識、技能の修得に加え、生涯にわたって活力あふれる生活を営める人材を育成します。具体的には以下を教育方針に基づいて教育課程を編成し、教育を実践しています。

低学年（1～2年）

数学科では、数学の基礎的な知識と計算技能を身に付け、数学的論理を通して思考力、表現力を育成するために、解析および代数分野の基礎的な科目を配置する。

物理科では、力学、波動、電気現象を抽象的に記述できる能力を育成するために、物理基礎、物理の科目を配置する。化学科では、自然や生活環境における化学の基本的な概念や原理・法則を理解できる能力を、生物科では、生命科学の基本概念を理解できる能力を育成するための科目を配置する。

保健体育科では、種々のスポーツを各自の体力やスキルに応じて実施できる能力を育成するための科目を配置する。

高学年（3～5年）

数学科では、現象を数学的にとらえ、問題を解決する能力を育成するために、解析および代数分野の応用的な科目と確率統計の基礎的な科目を配置する。

物理科では、物理現象への理解をさらに深め、工学への応用力を育成するために、応用物理の科目を配置する。

保健体育科では、自己の体力を的確にとらえ、生涯にわたって主体的に運動を継続す

るための能力と、健康管理の一環として生活習慣病の予防について理解できる能力を育成するための科目を配置する。

一般科目教室人文社会科学系

一般科目教室人文社会科学系では、豊かな教養とコミュニケーション能力を身に付けた人材を育成します。具体的には以下を教育方針として教育課程を編成し、教育を実践しています。

低学年（1～2年）

国語科では、小説・随筆といった、日常的ないし過去の時代から受け継がれている言語作品に触れ、その読解および鑑賞に習熟し、さらにその題材の選び方や技法を自らの表現法として会得できる能力を育成するための、国語の分野に関する基礎的な科目を配置する。社会科では、社会の地域的特色と歴史的背景を理解し、人間の在り方や生き方について把握する能力を育成するために、歴史や倫理などを学ぶ科目を配置する。英語科では、4技能の調和に基づく実践的なコミュニケーションの基礎能力を育成するための科目を配置する。

高学年（3～5年）

国語科では、すぐれた現代文を読み味わうとともに、手紙から意見文に至る実用的かつ社会とつながる文章の作法や読解法を習得するといった、国語分野に関する実践的な科目を配置する。さらに、意欲に応じて日本語学・国文学の所産とその方法論に触れ、学術的な見識を高めるための科目や、これまで学んできた基礎を応用した文章作成能力、口頭能力を育成するための科目を配置する。社会科では、現代の政治や経済、国際関係などを理解し、社会の変化の本質を批判的に認識できる能力を育成するために、政治や法、経済などを学ぶ科目を配置する。英語科では、より深い読解能力、聴解能力の養成を中心に、総合的なコミュニケーション能力を育成するための科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/>)

(概要)

アドミッション・ポリシー

求める学生像（本科共通）

福井高専では、基礎学力が備わっていて、本校が目指すものづくり及び環境づくりに関する学習に興味があり、技術者としてグローバルな視野を持って産業の発展に貢献したいという気持ちを強く持ち、そのために新しい目標に向かっていつもチャレンジをし、仲間と共同して課題を考え解決する能力を身に付けようと積極的に行動できる人を求めます。

環境都市工学科

環境都市工学科では、さらに次のような人を求めています。

1. 自然と共生した暮らしを営む環境づくりに興味がある人
2. 快適な暮らしを共有するための建物とまちづくりに興味がある人
3. 災害から人々の暮らしを守るシステムづくりに興味がある人

学部等名 生産システム工学専攻
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法 : https://www.fukui-nct.ac.jp/information/disclosure/ https://www.fukui-nct.ac.jp/information/idea/)</p>
<p>(概要)</p> <p>学 則</p> <p>第1条 本校は、教育基本法、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。</p> <p>2 本校は、その目的を実現するための教育を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。</p> <p>3 本校は、教育研究の成果の普及及び活用の促進に資するため、その教育研究活動の状況を公表するものとする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法 : https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/)</p>
<p>(概要)</p> <p>専攻科ディプロマ・ポリシー</p> <p>福井高専専攻科は、福井高専の教育理念に基づき「得意とする専門分野を持つことに加え、関連する他の技術分野の知識と能力を積極的に吸収し、自然環境との調和を図りながら持続可能な社会を有機的にデザインすることのできる知識と能力を身に付けた、国際社会で活躍できる実践的技術者」を福井高専専攻科の目指すエンジニア像に掲げ、各専攻において次に掲げる人材を育成することを目的としています。</p> <p>専攻科生産システム工学専攻は、高等専門学校等で習得した基礎学力の基盤の上に、機械・設計関連、システム制御関連、電子・物性関連および情報・通信関連分野の知識を広く学び、これらを有機的に統合した生産システムの設計並びに開発研究等を行うことのできる創造力を持った実践的技術者となるような人材を育成することを目的としています。</p> <p>専攻科環境システム工学専攻は、高等専門学校等で習得した基礎学力の基盤の上に、構造・材料関連、生物・化学関連、環境・分析関連および防災・都市システム関連分野の知識を広く学び、これらを有機的に統合した環境システムの設計並びに開発研究等を行うことのできる創造力を持った実践的技術者となるような人材を育成することを目的としています。</p> <p>これらの目的を達成するために、本校専攻科では、専攻科修了時点において学生が身につけるべき能力（学習教育目標）を下記のように定めています。これらの能力の獲得と学則の定める所定の授業科目等を履修し、基準となる単位取得をもって本校専攻科の目指すエンジニア像の達成と見なし、本校専攻科を修了した者が、大学改革支援・学位授与機構の審査に合格することによって学位が授与されます。</p> <p>JA 地球的視点から多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。</p> <p>JB 数学とその他の自然科学、情報処理、および異なる技術分野を含む問題にも対処できる、ものづくり・環境づくりに関する能力を身に付ける。</p> <p>JC 国際社会で活躍する技術者に必要なコミュニケーション基礎能力を身に付ける。</p> <p>JD 技術者に求められる基礎的なデザイン能力を身に付ける。</p> <p>JE 実践的能力および論理的思考能力を総合的に身に付ける。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法 : https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/)</p>

(概要)

専攻科カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに掲げる人材を育成するために、福井高専専攻科では、独自に定めた教育プログラム「環境生産システム工学」の「学習・教育目標」の達成に必要な項目を適正に配置し、他の技術分野の知識と能力を積極的に吸収し、自然環境との調和を図りながら持続可能な社会を有機的にデザインすることのできる知識と能力を身に付けた、国際社会で活躍できる実践的技術者として、生涯にわたって自己研鑽ができる学習能力を身に付けた修了生を社会に輩出すべく、本校専攻科の目指すエンジニア像に掲げる人材の育成を行います。

【教育プログラム編成の考え方】

- ① 異なる地域に属する人々がもつ文化や、それに根ざした価値観などを、多面的に認識でき、持続可能な地球社会を構築するという目的意識のもと、種々の分野における人間の活動が地球環境に与える影響について理解でき、技術者が社会に対して負うべき責任を明確に自覚したうえで、工学に関する学術団体が規定している倫理綱領を理解し、説明できる能力を育成するための科目を配置する。
- ② 工学的諸問題に対処する際に必要な、数学とその他の自然科学に関する知識を理解でき、情報処理に関する基礎知識を理解でき、得意とする専門技術分野を持つことに加え、他の技術分野を積極的に吸収して、持続可能な社会の構築を意識したものづくりのプロセスに対応できる能力を育成するための科目を配置する。
- ③ 英語による日常的な内容の文章や対話を理解でき、英語により自分の意見・考えを適切に表現でき、得意とする専門技術分野に関わる英語論文等の内容を日本語で説明でき、自分の意見・主張などを、相手を意識した規範的な表現を用いて日本語の談話や文章で表現でき、日本語による口頭発表や討議において、自らの報告・聴衆への対応・他者への質疑などを行え、正確で分かりやすいグラフや図表を、必要に応じて用意できる能力を育成するための科目を配置する。
- ④ 構造物又は製品を設計する際に、複数の技術分野についても意識しながら、つくる目的を理解し、機能性・安全性及び経済性に加えて、環境負荷の低減・快適性などを考慮でき、新しく出会った課題について、自ら問題点を発見しようとする意識を持ち、既知の事柄と未知の事柄とを識別したうえで、それらを蓄積・整理でき、既成概念にとらわれない創造性豊かな発想のもと、自分の専門分野以外の技術分野を含む課題について、多様な観点から検討・考察し、その結果を具体的に示せ、異なる分野の人を含んだチームでの協議及び共同作業を通して、解決方法について複数の候補を見だし、その中から最も適切なものを選択できる能力を育成するための科目を配置する。
- ⑤ 与えられた実験・演習課題の工学的意義を理解し、提示された方法を計画・実行することにより、定められた期限までに妥当な結果を導け、数学や情報処理の知識・技術を用いて、実験又は数値シミュレーションの結果を統計的に処理し、その結果を評価して、対象としている工学的現象の成り立ち・仕組み等を理解し、説明でき、技術者が経験する実務上の工学的な諸問題を認識し、それらを具体的に示せ、考察対象に関する見解を論理的に構築し、それに基づいた問題解決のための仮説を立て、適切な実験・解析方法を選択できる能力を育成するための科目を配置する。

【評価方法】

各専攻の教育課程における各科目の単位認定は、定期試験、レポート、口頭発表等、多様な方法を用いて評価します。合否基準は60点と設定しており、合格した者には所定の単位が与えられます。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/>)

(概要)

専攻科アドミッション・ポリシー

求める学生像（専攻科共通）

福井工業高等専門学校専攻科では、次のような資質や意欲を持つ人を広く求めています

す。

1. 得意とする工学分野の基礎能力（数学的素養を含む）を身に付けている人
2. 何事にも自主的・能動的に臨む姿勢を持つ人
3. ものづくり・環境づくりに意欲のある人
4. 多様なシステムを理解し、創造的にデザインする能力を身に付けたい人
5. 国際社会で活躍する実践的技術者を目指す人
6. 学士（工学）の学位を取得したい人

入学者選抜の基本方針

(1) 推薦による選抜

出身高等専門学校等の長が学業成績、人物ともに優れていると認め推薦し、本校専攻科への入学意欲が強い志願者のうち、出願時に提出する推薦書・調査書・小論文等に基づいた面接の結果を評価して選抜します。

(2) 学力検査による選抜

本校専攻科への入学意欲がある志願者のうち、学力検査（英語（TOEIC スコア等による換算を含む）、数学、専門科目）、出願時に提出する調査書・小論文等に基いた面接の結果を総合的に評価して選抜します。

(3) 社会人特別選抜

企業等に一定以上の在職期間を有し、所属する企業等の長が勤務成績、人物ともに優れていると認め推薦し、本校専攻科への入学意欲が強い志願者のうち、出願時に提出する推薦書・調査書・小論文等に基づいた面接の結果を評価して選抜します。

学部等名 環境システム工学専攻

教育研究上の目的

（公表方法：<https://www.fukui-nct.ac.jp/information/disclosure/>
<https://www.fukui-nct.ac.jp/information/idea/>）

（概要）

学 則

- 第1条 本校は、教育基本法、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。
- 2 本校は、その目的を実現するための教育を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。
- 3 本校は、教育研究の成果の普及及び活用の促進に資するため、その教育研究活動の状況を公表するものとする。

卒業の認定に関する方針

（公表方法：<https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/>）

専攻科ディプロマ・ポリシー

福井高専専攻科は、福井高専の教育理念に基づき「得意とする専門分野を持つことに加え、関連する他の技術分野の知識と能力を積極的に吸収し、自然環境との調和を図りながら持続可能な社会を有機的にデザインすることのできる知識と能力を身に付けた、国際社会で活躍できる実践的技術者」を福井高専専攻科の目指すエンジニア像に掲げ、各専攻において次に掲げる人材を育成することを目的としています。

専攻科生産システム工学専攻は、高等専門学校等で習得した基礎学力の基盤の上に、機械・設計関連、システム制御関連、電子・物性関連および情報・通信関連分野の知識を広く学び、これらを有機的に統合した生産システムの設計並びに開発研究等を行うことのできる創造力を持った実践的技術者となるような人材を育成することを目的としています。

専攻科環境システム工学専攻は、高等専門学校等で習得した基礎学力の基盤の上に、構造・材料関連、生物・化学関連、環境・分析関連および防災・都市システム関連分野の知識を広く学び、これらを有機的に統合した環境システムの設計並びに開発研究等を

行うことのできる創造力を持った実践的技術者となるような人材を育成することを目的としています。

これらの目的を達成するために、本校専攻科では、専攻科修了時点において学生が身につけるべき能力（学習教育目標）を下記のように定めています。これらの能力の獲得と学則の定める所定の授業科目等を履修し、基準となる単位取得をもって本校専攻科の目指すエンジニア像の達成と見なし、本校専攻科を修了した者が、大学改革支援・学位授与機構の審査に合格することによって学位が授与されます。

JA 地球的視点から多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。

JB 数学とその他の自然科学、情報処理、および異なる技術分野を含む問題にも対処できる、ものづくり・環境づくりに関する能力を身に付ける。

JC 国際社会で活躍する技術者に必要なコミュニケーション基礎能力を身に付ける。

JD 技術者に求められる基礎的なデザイン能力を身に付ける。

JE 実践的能力および論理的思考能力を総合的に身に付ける。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/>)

(概要)

専攻科カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに掲げる人材を育成するために、福井高専専攻科では、独自に定めた教育プログラム「環境生産システム工学」の「学習・教育目標」の達成に必要な項目を適正に配置し、他の技術分野の知識と能力を積極的に吸収し、自然環境との調和を図りながら持続可能な社会を有機的にデザインすることのできる知識と能力を身に付けた、国際社会で活躍できる実践的技術者として、生涯にわたって自己研鑽ができる学習能力を身に付けた修了生を社会に輩出すべく、本校専攻科の目指すエンジニア像に掲げる人材の育成を行います。

【教育プログラム編成の考え方】

- ① 異なる地域に属する人々がもつ文化や、それに根ざした価値観などを、多面的に認識でき、持続可能な地球社会を構築するという目的意識のもと、種々の分野における人間の活動が地球環境に与える影響について理解でき、技術者が社会に対して負うべき責任を明確に自覚したうえで、工学に関する学術団体が規定している倫理綱領を理解し、説明できる能力を育成するための科目を配置する。
- ② 工学的諸問題に対処する際に必要な、数学とその他の自然科学に関する知識を理解でき、情報処理に関する基礎知識を理解でき、得意とする専門技術分野を持つことに加え、他の技術分野を積極的に吸収して、持続可能な社会の構築を意識したものづくりのプロセスに対応できる能力を育成するための科目を配置する。
- ③ 英語による日常的な内容の文章や対話を理解でき、英語により自分の意見・考えを適切に表現でき、得意とする専門技術分野に関わる英語論文等の内容を日本語で説明でき、自分の意見・主張などを、相手を意識した規範的な表現を用いて日本語の談話や文章で表現でき、日本語による口頭発表や討議において、自らの報告・聴衆への対応・他者への質疑などを行え、正確で分かりやすいグラフや図表を、必要に応じて用意できる能力を育成するための科目を配置する。
- ④ 構造物又は製品を設計する際に、複数の技術分野についても意識しながら、つくる目的を理解し、機能性・安全性及び経済性に加えて、環境負荷の低減・快適性などを考慮でき、新しく出会った課題について、自ら問題点を発見しようとする意識を持ち、既知の事柄と未知の事柄とを識別したうえで、それらを蓄積・整理でき、既成概念にとらわれない創造性豊かな発想のもと、自分の専門分野以外の技術分野を含む課題について、多様な観点から検討・考察し、その結果を具体的に示せ、異なる分野の人を含んだチームでの協議及び共同作業を通して、解決方法について複数の候補を見だし、その中から最も適切なものを選択できる能力を育成するための科目を配置する。
- ⑤ 与えられた実験・演習課題の工学的意義を理解し、提示された方法を計画・実行することにより、定められた期限までに妥当な結果を導け、数学や情報処理の知識・技術

を用いて、実験又は数値シミュレーションの結果を統計的に処理し、その結果を評価して、対象としている工学的現象の成り立ち・仕組み等を理解し、説明でき、技術者が経験する実務上の工学的な諸問題を認識し、それらを具体的に示せ、考察対象に関する見解を論理的に構築し、それに基づいた問題解決のための仮説を立て、適切な実験・解析方法を選択できる能力を育成するための科目を配置する。

【評価方法】

各専攻の教育課程における各科目の単位認定は、定期試験、レポート、口頭発表等、多様な方法を用いて評価します。合否基準は60点と設定しており、合格した者には所定の単位が与えられます。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.fukui-nct.ac.jp/information/three/>)

(概要)

専攻科アドミッション・ポリシー

求める学生像（専攻科共通）

福井工業高等専門学校専攻科では、次のような資質や意欲を持つ人を広く求めています。

1. 得意とする工学分野の基礎能力（数学的素養を含む）を身に付けている人
2. 何事にも自主的・能動的に臨む姿勢を持つ人
3. ものづくり・環境づくりに意欲のある人
4. 多様なシステムを理解し、創造的にデザインする能力を身に付けたい人
5. 国際社会で活躍する実践的技術者を目指す人
6. 学士（工学）の学位を取得したい人

入学者選抜の基本方針

(1) 推薦による選抜

出身高等専門学校等の長が学業成績、人物ともに優れていると認め推薦し、本校専攻科への入学意欲が強い志願者のうち、出願時に提出する推薦書・調査書・小論文等に基づいた面接の結果を評価して選抜します。

(2) 学力検査による選抜

本校専攻科への入学意欲がある志願者のうち、学力検査（英語(TOEICスコア等による換算を含む)、数学、専門科目)、出願時に提出する調査書・小論文等に基づいた面接の結果を総合的に評価して選抜します。

(3) 社会人特別選抜

企業等に一定以上の在職期間を有し、所属する企業等の長が勤務成績、人物ともに優れていると認め推薦し、本校専攻科への入学意欲が強い志願者のうち、出願時に提出する推薦書・調査書・小論文等に基づいた面接の結果を評価して選抜します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： https://www.fukui-nct.ac.jp/information/organization/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
一般科目教室	—	9人	11人	0人	6人	0人	26人
機械工学科	—	5人	2人	1人	1人	0人	9人
電気電子工学科	—	4人	3人	1人	1人	0人	9人
電子情報工学科	—	3人	4人	2人	0人	0人	9人
物質工学科	—	5人	7人	0人	1人	0人	13人
環境都市工学科	—	5人	2人	1人	2人	0人	10人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			36人				36人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.fukui-nct.ac.jp/course/faculty-member/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
F D講演会（アサーション・トレーニング講演会）（2回）、公開授業週間（年2回）、 新任・昇任教員研修会（5回）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
機械工学科	40人	41人	102.5%	200人	202人	101.0%	若干名	0人
電気電子工学科	40人	40人	100.0%	200人	194人	97.0%	若干名	1人
電子情報工学科	40人	41人	102.5%	200人	200人	100.0%	若干名	1人
物質工学科	40人	41人	102.5%	200人	196人	98.0%	若干名	0人
環境都市工学科	40人	41人	102.5%	200人	203人	101.5%	若干名	1人
合計	200人	204人	102.0%	1000人	995人	99.5%	若干名	3人
生産システム 工学専攻	12人	19人	158.3%	24人	33人	137.5%	0人	0人
環境システム 工学専攻	8人	17人	212.5%	16人	28人	175.0%	0人	0人
合計	20人	36人	180.0%	40人	61人	152.5%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
機械工学科	33人 (100%)	14人 (42.4%)	19人 (57.6%)	0人 (0%)
電気電子工学科	36人 (100%)	13人 (36.1%)	22人 (61.1%)	1人 (2.8%)
電子情報工学科	35人 (100%)	19人 (54.3%)	15人 (42.9%)	1人 (2.8%)
物質工学科	35人 (100%)	17人 (48.6%)	18人 (51.4%)	0人 (0%)
環境都市工学科	40人 (100%)	18人 (45.0%)	22人 (55.0%)	0人 (0%)
合計	179人 (100%)	81人 (45.3%)	96人 (53.6%)	2人 (1.1%)
生産システム工 学専攻	16人 (100%)	4人 (25.0%)	12人 (75.0%)	0人 (0%)
環境システム工 学専攻	14人 (100%)	6人 (42.9%)	8人 (57.1%)	0人 (0%)
合計	30人 (100%)	10人 (33.3%)	20人 (66.7%)	0人 (0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
<p>主な進学先：福井工業高等専門学校専攻科，豊橋技術科学大学，長岡技術科学大学，福井大学，金沢大学，室蘭工業大学，筑波大学，千葉大学，東京工業大学，信州大学，京都工芸繊維大学，琉球大学，福井工業大学</p> <p>主な就職先：北陸電力，関西電力，中部電力，信越化学工業，第一工業製菓，パナソニック，レンゴ一，村田機械，KBサーレン，村田製作所，福井県庁，福井市役所，鯖江市役所，越前市役所，国土交通省，西日本旅客鉄道，東海旅客鉄道，トヨタ自動車，三菱重工業，小島プレス工業，日立造船，大阪ガス，ソフトバンク，日立システムズ，武生特殊鋼材，セイコーエプソン，石黒建設，三井住友建設</p>				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>各科目のシラバスにおいて、授業の概要・進め方・内容・方法・注意点を明記するとともに、開講期（通年・前期・後期）における授業計画（週ごとの、授業内容・方法と到達目標）を明記している。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>シラバスにおいて、あらかじめ設定し公表している評価割合（成績評価方法・基準）により、厳格かつ適正に評価された成績を基に、単位授与を行っている。なお、授業科目の履修成績に対する異議申立ての手続き等について、全校的なガイドラインを設け、学生に不利益とならぬよう配慮している。</p>
--

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	機械工学科	169 単位	①・無	単位
	機械工学科	167 単位 ※平成 30 年度以降の入学者	①・無	単位
	電気電子工学科	169 単位	①・無	単位
	電気電子工学科	167 単位 ※平成 30 年度以降の入学者	①・無	単位
	電子情報工学科	169 単位	①・無	単位
	電子情報工学科	167 単位 ※平成 30 年度以降の入学者	①・無	単位
	物質工学科	169 単位	①・無	単位
	物質工学科	167 単位 ※平成 30 年度以降の入学者	①・無	単位
	環境都市工学科	169 単位	①・無	単位
	環境都市工学科	167 単位 ※平成 30 年度以降の入学者	①・無	単位
	生産システム工学専攻	62 単位	①・無	単位
	環境システム工学専攻	62 単位	①・無	単位
G P Aの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法：</p> <p>https://www.fukui-nct.ac.jp/information/campus/ https://www.fukui-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2020/07/sisetu5859.pdf https://www.fukui-nct.ac.jp/life/welfare-2/ https://www.fukui-nct.ac.jp/facility/</p>
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	機械工学科 電気電子工学科 電子情報工学科 物質工学科 環境都市工学科	234,600円	84,600円	76,550 ～94,150円	日本スポーツ振興センター掛金 1,550円(年額) 教科書代 36,000～42,000円 後援会入会金 10,000円 後援会会費 24,000円(年額) 学生会費 5,000円(年額) 寄宿寮(寮生のみ) 個室 9,600円(年額) 相部屋 8,400円(年額) 寮生会費(寮生のみ) 2,000円(年額)
	生産システム 工学専攻 環境システム 工学専攻	234,600円	84,600円	35,550 ～57,550円	日本スポーツ振興センター掛金 1,550円(年額) 教科書代 10,000～22,000円 後援会入会金 10,000円 (他高専等からの入学者のみ) 後援会会費 24,000円(年額)

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 各教員がオフィスアワーを設定し、学生の修学支援を実施している。本科4、5年生においては、各クラスに担任、副担任を置き、学生の学習・生活全般の指導を行っている。専攻科学生については、各学科から専攻科委員を置き、学生の指導を行っている。また、学習支援室、担任・担任補佐、教科担当教員が中心となり、成績不振学生あるいは希望する学生に対し補習授業による学習支援を行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) キャリア支援室を設置し、就職・進学に関する相談、書類作成の支援等を行っている。また、学生が進路選択の参考とすることを目的に「キャリアガイダンス」、「専攻科・大学・大学院合同説明会」、「キャリア教育セミナー」等の行事を企画、実施している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 保健室に看護師1名(常勤)、事務職員1名(非常勤)を配置し、急病者等の応急処置、健康相談等にあたっている。また、学生相談室において相談室員5名、カウンセラー2名(非常勤)がカウンセリングを実施(月・土・日曜を除く)している。さらに、キャンパス自立支援室を設け、心身に障害がある学生の教育及び学生生活の支援が必要と認められた学生に支援チームを立ち上げ、支援内容等の検討を行い、支援を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： https://www.fukui-nct.ac.jp/information/disclosure/

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	G118110105666
学校名	福井工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		47人	46人	49人
内 訳	第Ⅰ区分	21人	-	
	第Ⅱ区分	11人	20人	
	第Ⅲ区分	15人	-	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				49人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定		0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)		0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況		0人	0人
「警告」の区分に連続して該当		0人	0人
計		0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間	前半期	後半期	
		0人	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)		0人	0人
G P A等が下位4分の1		0人	-
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況		-	0人
計		-	-
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。